

「森銑三刈谷の会」だより No. 21

発行 2023/6/17 (月刊・メールでの投稿歓迎)

例会 第3土曜日 14:00-16:00 市中央図書館 参加自由

バックナンバー 刈谷市中央図書館>森銑三刈谷の会

共同代表 神谷磨利子・鈴木 哲 tetsu_s@katch.ne.jp

表『森銑三著作集』(中央公論社)正統2編4版・月報3編4版(要約)						鈴木哲 tetsu_s@katch.ne.jp				
区分	No.	書誌	版	判	カバー画	内容	月報	うち森	編	年齢
正編	1	森銑三[著] 野間光辰・中村幸彦・朝倉治彦[編] (1970-71;72)『森銑三著作集』全12巻+別巻	初版	A5判	なし(函入),本体濃紺	1-9:人物篇1-9 (1 平賀源内研究など,6:渡辺華山,松本奎堂など). 10-11:典籍篇1-2(10. 西鶴と西鶴本など 11随筆とは何かなど). 12:雑纂(人物雑稿,回想). 別:索引(人名索引・書名索引・森銑三著作目録・森銑三著作集総目次など)	1 桃裕行,相磯凌霜,6 鈴木棠三,柴田光彦,森銑三,3 (6巻) 大岡昇平,森三郎,5(2巻)栗原長治,9(4巻) 山本夏彦,10 外山滋比古,織茂三郎,12 吉田幸一,水野稔,13 森・野間・中村・朝倉(月報号発行巻順)	「思ひ出すことども」全13回	1編	75-77
	2	同[著]同[編](1973-74)『森銑三著作集』全12巻+別巻	普及版	四六判	[傳]谷文兎筆「諸名家肖像」		普及版(月報号巻数順改番)	なし[削除]	1編a	78-79
	3	同[著]同[編](1988-89)『森銑三著作集』全12巻+別巻	新装愛蔵版	A5判	渡辺華山筆「一掃百態図」		[新執筆]1 反町茂雄,中野三敏,2 小出昌洋,江本裕,5 勝尾金弥,12 都筑道夫,13 中村幸彦	なし	2編	没後
続編	4	同[著] 中村幸彦・朝倉治彦・小出昌洋[編] (1992-95)『森銑三著作集 続編』全16巻+別巻	初版	A5判	鋏形蕙斎筆「蕙斎略画」	1-6:人物篇1-6. 7-9:典籍篇1-3. 10-12 逸聞篇1-3. 13-16 雑纂篇1-4(15 思ひ出すことどもなど). 別:索引(初期文章 人名索引・書名索引・著作目録・正編続編総目次)	[新執筆]1小谷忠造,柴田光彦,8 佐藤悟,朝倉治彦,12谷澤尚一,ロバート・キャンベル,16 水田紀久,上野洋三,17 小出昌洋	なし(「思ひ出すことども」15 3編巻所収)		

第21回(2023/5/20)鈴木哲『森銑三著作集』正統2編4版・月報3編4版:参加13人 鈴木哲

森銑三を知る人は銑三に『森銑三著作集』があること知っている。中央図書館郷土参考資料室の利用者は著作集には正編と続編の2編があることは知っているかもしれない。しかし、正編には初版(1970-71;72),普及版(1973-74),新装愛蔵版(1988-89)の3版があり、内容と月報が異なっていることに気付く人は少ない。表に示すように著作集は正統2編4版・月報3編4版がある。刈谷市図書館所蔵は初版,普及版,続編(1992-95)で、愛蔵版閲覧には安城市か知立市に赴く必要がある。しかし両市は初版と普及版は未蔵である。

会では著作集と全集の違い、初版各巻は銑三の依頼で弟・三郎が城町図書館に持っていたこと、著作集への読売文学賞(研究・翻訳賞)(1972)受賞は別巻(1972)刊行前であったこと、愛蔵版以降は銑三没後であったこと、編者野間光辰・中村幸彦・朝倉治彦・小出昌洋と中央公論者担当高梨茂、正統2編30巻の構成、索引の使用法、著作集未収内容を話した。

会に兵藤さんが正編普及版の一部(カバージャケットは[傳]谷文兎筆)と同愛蔵版・続編のパンフレット、神谷磨利子さんが同愛蔵版(渡辺華山筆)と続編(鋏形蕙斎筆)を持ってきてくださり、その壮観さは紀田順一郎[監](1998)『学問と情熱 第8巻/森銑三 知は市井に在り』紀伊國屋書店の初期場面を連想させた。

著作集「森銑三著作目録」(1989)や藤沢市教育委員会(1995)・刈谷市教育委員会(1995)の不備を補う年譜、「偉人暦」『新愛知』1925/1-25/10、書簡、追悼集など未収録書誌目録・索引の作成は今後の課題と思われる。

並んだ物にびっくり!

神谷明子

当日はまず並んだ各種の著作集にびっくり! 見ることから始まるのかなと思いました。著作集と全集のちがいが、月報の重要性など面白かったです。本巻は読むのに時間がかかるけれど、月報は小鉢でいろいろで裏話とかも楽しい。渡辺華山の表紙はカラーで素晴らしい。哲さんは中身がいっぱいで話したい気持ちが先に行くので、もう少しゆっくりしてくださると嬉しいです。

直接触れることで興味が湧きました 神谷美恵子

耳が遠くなってきたので文字を追うので精一杯でした。マイクを使って頂くと有り難いです。本に直接触れることは嬉しくて興味が湧きました。図書館で一冊(「物いふ小箱」)借りて来て楽しく読んでいます。これからもよろしくお願いします。

続編のカバー画

神谷磨利子

『著作集』続編は鋏形蕙斎筆「蕙斎略画」より図を選んでカバー画としている。銑三は『書物』(『著作集』続編9巻)で「見る書物」の解説をし、近世期の画譜・絵本としてこの蕙斎と華山を紹介している(pp.388-389)。特に蕙斎は「独特の境地を開いて居り、その軽快洒落を極めた略画は、他に類のない高級な芸術品を成してゐる」

「大人が見ても子どもが見ても面白い」と褒めている。蕙斎は浮世絵師・北尾政美として唐来三和の黄表紙『再会母子銭独楽』の絵を描いた。銑三は「政美の挿画またよし」と褒めている。森三郎の童話「めぐりあひ」で既になじんだ絵師の名であり、再会でできてうれしかった。

予定

22:2023/6/17(土) 河橋育実 森銑三と松岡於菟衛翁

23:2023/7/15(土) 神谷磨利子 供養塚の二坪半の家